

表3 回答者の基本属性

属性	(n=1,452)
性別	
男性	89.3%
女性	10.7%
婚姻状態	
独身	32.3%
既婚	67.7%
別居	1.3%
離婚	0.5%
年齢	平均 40.7 歳 (SD=8.7 歳 Range=20 歳~71 歳)
年収	
1,000 万円以上	26.9% (最頻値)
1ヶ月に自由に使える小遣い 50,000 バーツ (約 15 万円)	29.6% (最頻値)
勤務形態	
駐在 (家族同伴赴任)	24.1%
駐在 (単身赴任)	44.5%
現地採用	29.7%
その他	1.7 %
業種 (上位 3 回答)	
非自動車関連製造業	34.7%
自動車関連製造業	26.0%
卸売・小売業飲食店	8.7%
職種 (上位 3 回答)	
管理職	33.4%
会社役員	13.1%
技術職	13.1%
勤務企業の従業員規模	
1,000 名以上の企業に勤務	32.5% (最頻値)
いままでの訪タイ回数 (上位 3 回答)	
初めて	30.8%
10 回以上	24.4%
2 回目	16.7%
タイ滞在合計年数	
1-2 年	24.4% (最頻値)
同居状況	
一人暮らし	71.8%
同居	28.2%
タイ語能力	
まったく、あるいは殆どできない	13.5%
カタコトならできる	46.3%
日常会話は問題ない	27.0%
仕事でも使える	13.1%
タイの好きなところ (上位 3 回答・複数回答)	(回答者における)
物価が安い	75.7%
自由	62.1%
繁華街	51.9%

表4 「HIV 感染リスクが高いと考えられる回答者」の基本属性

属性	(n=22)
性別	
男性	81.8%
女性	18.2%
婚姻状態	
独身	22.7%
既婚	72.7%
別居	0%
離婚	4.5%
年齢	39.7 歳 (SD=5.9 歳 Range=29 歳~49 歳)
年収	
500 万円~800 万円未満	31.8% (最頻値)
1 ヶ月に自由に使える小遣い	
2 万パーツ~3 万パーツ未満 (約 6 万円~ 9 万円)	22.7% (最頻値)
勤務形態	
駐在 (家族同伴赴任)	27.3%
駐在 (単身赴任)	40.9%
現地採用	22.7%
その他	9.1%
業種 (上位 3 回答)	
自動車関連製造業	31.8%
金融	22.7%
非自動車関連製造業	13.6%
建設業	13.6%
職種 (上位 3 回答)	
役職	22.7%
管理職	22.7%
事務職	18.2%
勤務企業の従業員規模	
1,000 名以上の企業に勤務	18.2% (最頻値)
50-99 名の企業に勤務	18.2%
いままでの訪タイ回数 (上位 3 回答)	
初めて	25.0%
4 回目	20.0%
10 回以上	20.0%
タイ滞在合計年数	
1-2 年	36.4% (最頻値)
同居状況	
一人暮らし	77.3%
同居	22.7%
タイ語能力	
まったく、あるいは殆どできない	18.2%
カタコトならできる	31.8%
日常会話は問題ない	27.3%
仕事でも使える	22.7%
タイの好きなところ (上位 3 回答・複数回答)	(回答者における)
物価が安い	68.2%
自由	59.1%
繁華街	63.6%

表5 「タイにおける最後の性交渉でのコンドーム使用の有無」に影響を与える因子の検討 (n=1,051)

	独立変数	β	p-value
基本属性	性別	0.132	0.178
	婚姻状況	0.083	0.368
	駐在形態	0.063	0.607
	職種	0.236	0.000 ***
	業種	-0.222	0.000 ***
	勤務先企業規模	0.173	0.001 **
	居住状態	-0.074	0.395
	年齢	0.186	0.002 **
	年収	-0.136	0.028 *
	1ヶ月に自由に使えるお金	0.031	0.845
	滞在期間	0.005	0.995
	タイにおいて、何でも相談できる相手の有無	-0.103	0.229
	渡航前後の変化	タイに来て以来の仕事のストレスの変化	0.067
タイに来て以来の日常生活のストレスの変化		-0.158	0.019 *
タイに来て以来の人間関係の変化		-0.223	0.000 ***
タイに来て以来の寂しさの変化		-0.098	0.318
タイに来て以来の日本社会からの疎外感の有無		0.006	0.943
タイに来て以来の「旅の恥は掻き捨て」と思っ て行動した経験の有無		0.028	0.738
タイに来て以来の活動レベルの変化		0.272	0.001 **
タイに来て以来の開放感の変化		0.085	0.277
タイに来て以来の「他人の目を気にする」 感覚の有無		0.043	0.569
タイに来て以来の飲酒量の変化		-0.215	0.000 ***
HIV/AIDS に関する 知識	タイに来て以来の仕事上の飲酒量の変化	0.004	0.958
	HIV 感染感染経路に関する正しい知識の有無	-0.003	0.968
	日本で最も多い HIV 感染経路に関する正しい知識の有無	0.160	0.030 *
	タイで最も多い HIV 感染経路に関する正しい知識の有無	0.055	0.426
	「健康に見える人でも、HIV に感染している」という正しい知識の有無	0.462	0.000 ***
	HIV 以外の性感染症と診断された経験の有無	-0.129	0.025 *
検査歴・既往歴	B 型肝炎と診断された経験の有無	0.002	0.969
	タイで HIV 検査を受けた有無	-0.032	0.797
	日本で HIV 検査を受けた有無	-0.085	0.200
HIV/AIDS 教育	現在勤務のタイ事業所における HIV/AIDS 教育の有無	-0.231	0.000 ***

β =標準回帰係数

*p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

R² 乗=0.642

添付1)

第19回日本エイズ学会学術集会

東南アジア諸国における日本人中・長期滞在者の HIV 感染リスクに関する研究（演題番号 047）

伊藤千顕¹、今津里沙²、野内英樹²、黒岩宙司¹

¹ 東京大学大学院 医学系研究科 国際保健計画学教室

² 結核予防会結核研究所

背景：人は国境を越える移動をすると、母国にいる時と比較した場合、社会規範や環境などの変化により、不特定多数との性交渉などの性行動が活発化し、HIV を含む性感染症感染のリスクが上昇すると考えられている。しかしグローバル化による海外へ渡航する日本人がますます増大するなか、海外においての日本人の HIV 感染リスクの同定、および予防対策に必要な科学的調査は数少ない。

目的：本研究は、性行動が活発な若年邦人が多く、なおかつ HIV 蔓延が懸念されている東南アジア3カ国（シンガポール、タイ、インドネシア）において、日本人中・長期滞在者を対象に、危険因子と HIV 感染リスクの同定、および予防対策に寄与する実践的な知見を示し、現在よりも効果的かつ有益な HIV 予防対策の実施に資することを目的としている。

方法：我々はまず現状分析の一環として、この集団の「リスク」がどのように認識されているのかを、政策関連書や先行研究についての文献調査などを通して質的に分析した。

結果：これまで海外渡航者のリスク行動は個人の非理性的な行動によるものであると考えられていることがわかった。従ってこの集団に対する健康教育方法も論理主義及び個人行動の合理性を仮定した個人主義に基づいていた。しかし我々はリスク認識・行動は社会的に構築され、意味付けをされると考える。従って日本人中・長期滞在者の HIV 感染リスクを調査する際には国際人口移動集団の特殊性やコンテキスト（行動変容に影響を与えると思われる社会的関連資本、現地日本人コミュニティの特徴、渡航先における性産業と男女関係の形態など）に注目する必要がある。現在、我々は上記に記した3カ国における日本人中・長期滞在者を対象に、従来の KAP 調査に加えて、これらの社会的要因に関する質問表調査を行っている。

東南アジア諸国における
日本人中・長期滞在者のHIV感染リスクに関する研究

伊藤千顕^{1,2} 今津里沙^{1,3} 野内英樹¹ 黒岩宙司²

¹財団法人結核予防会結核研究所

²東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻国際保健計画学教室

³ロンドン大学熱帯医学公衆衛生院

海外渡航・長期滞在日本人数

	海外渡航邦人数* (出国者)	在留邦人登録者数** (永住者を含む3ヶ月以上滞在者)
アジア	8,481,472	21,2378
北米	5,519,652	37,7223
南米	68,420	9,4310
ヨーロッパ	2,374,845	15,8548
その他地域	1,374,201	68,559
合計	17,818,590	91,1018

引用：外務省海外在留邦人数調査統計および国際観光振興会（JNTO）より編集²
* 2000年（出国カード廃止年） **2003年

HIV感染リスク要因

従来のHIV感染リスク要因

渡航先でのHIV/AIDS発生率・有病率・コンドーム使用率等

国際人口移動特有のHIV感染リスク要因

移動の形態 「セックス・ツーリズム」(宗像 1993)

生活環境の変化・異文化による過度のディストレス (IOM, 2002)

- 家族・友人・恋人との離散による「寂しさ」(Anderson, 2003)

- 日本社会・会社・コミュニティからの疎外感

(Whyte and Parish, 1984; Wood et al., 2000)

- 社会規範からの開放感・逸脱行動 (Konde-Luile, 1991; Akers, 1985)

薬物使用 (Nemoto, 2002)

冒険心・探求心 (Ito and Chunjitkaruna, 1999)

渡航先に対するイメージ (O'Connell Davidson, 1995)

現地性産業へのアクセス

- 経済格差、為替相場

3

研究目的

1. 東南アジアにおける中・長期滞在者のHIV感染リスクの同定
 - ・ コンドーム使用率を含む性行動
 - ・ HIV/AIDSに関する知識・意識
2. 国際移動によって発生する特定危険因子の理解
3. HIV/AIDSに関する情報入手経路の同定

4

調査概要

- 対象者
 - ・ 日本国籍
 - ・ 18歳以上～40歳未満
 - ・ 過去5年間に6ヶ月以上滞在
 - ・ 同意書に同意した個人
- 期間
 - ・ 2005年9月～継続中
- 調査地
 - ・ タイ・バンコク
 - ・ シンガポール
- 横断的研究
 - ・ 機縁法質問票調査
 - 個別にIDを発行しインターネット上で回答
 - 街頭募集での自己記入式
 - タイ： 42名
 - シンガポール：29名
 - 計71名
- ・ フォーカス・グループ・ディスカッション (FGD)
 - タイ： 28名
 - シンガポール：17名
 - 計45名

質問票回答者の基本属性

	タイ (n=42)		シンガポール(n=29)	
平均年齢	30.6歳		32.0歳	
性別	男性	54.5% (24)	55.2%	(16)
	女性	40.9% (18)	44.8%	(13)
婚姻状態*	独身	72.7% (32)	41.4%	(12)
	既婚	22.7% (10)	58.6%	(17)
職業*	駐在	11.4% (5)	55.2%	(16)
	現地採用	11.4% (5)	31.0%	(9)
	自営業	13.6% (6)	0%	(0)
	学生	36.4% (16)	3.4%	(1)
	その他	22.8% (10)	10.2%	(3)
今回の滞在期間 (最頻値) *	3～6ヶ月		24～36ヶ月	
HIV以外の性感染症歴	4.5%	(2)	10.3%	(3)
HIV抗体検査歴	15.9%	(7)	41.4%	(12)

*Mann-Whitney検定 p<0.05

渡航前・後におけるセックスの変化

セックスの回数

	タイ (n=42)		シンガポール (n=29)	
増えた	20.5%	(9)	3.4%	(1)
減った	15.9%	(7)	34.5%	(10)
変わらない	50.0%	(22)	44.8%	(13)

セックスの相手の人数

	タイ (n=42)		シンガポール (n=29)	
増えた	22.7%	(10)	13.8%	(4)
減った	0%	(0)	10.3%	(3)
変わらない	10.3%	(3)	65.5%	(19)

7

相手別コンドームの使用頻度

		タイ (n=42)		シンガポール (n=29)	
配偶者 BF/GF	「はい、常に」	34.1%	(15)	3.4%	(1)
	「時々」「いいえ」	45.3%	(19)	20.7%	(6)
セフレ	「はい、常に」	9.1%	(4)	0.0%	(0)
	「時々」「いいえ」	15.9%	(7)	6.8%	(2)
性産業	「はい、常に」	22.7%	(10)	6.9%	(2)
	「時々」「いいえ」	20.5%	(9)	6.9%	(2)
知らない人	「はい、常に」	22.7%	(10)	3.4%	(1)
	「時々」「いいえ」	20.4%	(9)	6.8%	(2)

知識・心理行動変容・情報入手経路

		タイ (n=42)		シンガポール (n=29)		
HIV/AIDSに関する知識の正答率*		60.6%		54.2%		
渡航後の心理・行動変容						
仕事面でのストレスが増えた		9.5%	(4)	20.7%	(6)	
生活面でのストレスが増えた		16.7%	(7)	20.7%	(6)	
寂しさが増えた		35.7%	(15)	41.4%	(12)	
開放感が増えた		59.8%	(25)	55.2%	(16)	
最も頻度の高かったHIV/AIDSの情報入手方法**	日本で見たテレビ	16.7%	(3)	日本で見たテレビ	21.1%	(9)
	海外でのインターネット	14.0%	(2)	日本で読んだ雑誌	16.7%	(5)
	海外で見たテレビ	11.8%	(2)	海外で見たテレビ	14.4%	(3)
最も頻度の低かったHIV/AIDSの情報入手方法**	海外の検疫所	0.5%	(1)	海外の検疫所	0.0%	(0)
	日本での検疫所	2.2%	(4)	海外での人づて	2.2%	(2)
	海外で読んだ新聞	3.2%	(6)	日本での検疫所	4.4%	(4)
				日本でのインターネット	4.4%	(4)

*回答者の平均正答率

**複数回答

9

フォーカス・グループ・ディスカッション ～タイ～

	男 (20名)	女 (8名)
HIV/AIDSに対する認識の変化	タイ=エイズというイメージが日本にいたときからあり、タイに来て認識自体はそれほど変化していない。	特にタイに来て、エイズを意識したことはない。(駐在員の妻として来た女性は、自分の夫への感染リスクとして、認識するようにはなった)
自分のHIV感染リスクに対する認識の変化	タイ=エイズというイメージがある故、気をつけるようにしている。その反面、「内」と「外」という感覚が強いので、信用する相手とはタイとはいえ特にエイズを意識したことはない。	自分のリスク行動によって、感染する可能性はないが、男性パートナーから移される心配はある。その反面、パートナーとそのような話はあまりしない。 「気をつけてほしい、と思うくらいですね」
HIV/AIDSに関する情報	現地の日本語メディア(フリーペーパー、風俗誌等)での情報には敏感。	男性にもっと教育してほしい。会社にもっとエイズ教育に参加してほしい。

フォーカス・グループ・ディスカッション
～シンガポール～

	男（10名）	女（7名）
HIV/AIDSに対する認識の変化	HIV抗体検査が義務化されていることにより、エイズを日本にいるときより身近に感じる。	特に変わらない。 「HIV抗体検査を受けたことも忘れてた。」
自分のHIV感染リスクに対する認識の変化	日本人コミュニティ・国が狭いため人の目が厳しく「悪いこと」はできないし、比較的職業・地位が安定した邦人が多いため逸脱した行為をするものは少ないのではないかと。 ただし、隣国には安い風俗があるので足を伸ばせばすぐに行ける・行っている人は多い。	考えたこともない。 「若い学生さんとか、旅行者の方ならあるかもしれないけど、それにしたって、シンガポールで何ができるっていうの？」
HIV/AIDSに関する情報	何かセンセーショナルなおこったときのみ、自発的に情報を得ようとする。 日常的に日本語に馴れているのでどんな情報であれ目には入る。	特に欲しいとは思わないが、情報が新しく、解りやすい言葉で書いてあり、しかも無料で配信されるなら、目を通すかもしれない。

考察

- HIV感染リスクの同定
 - 意識の程度にかかわらずコンドーム使用率が低い
 - 「ミヤ・ノイ」の慣習
 - 近隣諸国の性産業へのアクセス
- 国際移動によって発生する特定危険因子の理解
 - 量的な相関関係は認められなかった
- HIV/AIDSに関する情報入手経路の同定
 - 現地日本語メディアの重要性

本研究の限界と今後の課題

- 調査方法が無作為抽出法でないため、回答者の属性に様々な偏向があり、調査結果を一般化することが困難
- 現時点では回答者数が少ないのと、「答えたくない」「無回答」が多いため量的分析に限界
- 移動特有要因とHIV感染リスクの因果関係のメカニズムの解明
- 移動人口に対する効果的なコミュニケーション・チャンネルの特定

13

文献引用

- Akers, R.L. 1985. *Deviant Behavior: A Social Learning Approach*. Belmont, CA: Wadsworth Publishing Company.
- Anderson, A., Z. Qingsi, X. Hua, and B. Jianfeng. 2003. "China's Floating Population and the Potential for HIV Transmission: A Social-Behavioural Perspective," *AIDS Care* 15(2):177-185.
- International Organization for Migration. 2002. "Labour Migration and HIV/AIDS in Southern Africa"
- Ito, C. Chuntjkaruna, P., 2001. "Overview of Thai Migrant Workers in Japan" in *Thai Migrant Workers in East and Southeast Asia: Conductions in Destination Country*, Vol 1, pp7-64, Asian Research Center for Migration (ARCM), Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand
- Konde-Lule, J. 1991. "The Effects of Urbanization on the Spread of AIDS in Africa," *African Urban Quarterly* 6(1&2):13-18.
- Whyte, M.K. and W.L. Parish. 1984. *Urban Life in Contemporary China*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Wood, E., K. Chan, J.S. Montaner, M.T. Schechter, M. Tyndall, M.V. O' Shaughnessy, and R.S. Hogg. 2000. "The End of the Line: Has Rapid Transit Contributed to the Spatial Diffusion of HIV in One of Canada's Largest Metropolitan Areas?" *Social Science and Medicine* 51(5):741-748.
- Nemoto, T., Yokota, F., Hanafusa, K., & Wada, K. 2002. HIV-related risk behaviors among Japanese tourists in the Khaosan Road area, Bangkok, Thailand. *ADIS and Behavior*, 6, 245- 253.
- 宗像 恒次編 『エイズと売買春レポート』 1993 日本評論社

14

謝辞

本研究は、厚生労働科学エイズ対策研究石川班「アジア太平洋地域における国際人口移動から見た危機管理としてのHIV等感染症対策に関する研究」(平成15-17年度)とその推進事業(財団法人エイズ予防財団管轄:外国の研究機関等への委託事業)にて実施されました。

厚生労働科学研究費補助金（エイズ・結核研究事業）
分担研究報告書

アジアに基づく専門家ネットワーク構築への試みに関する研究

分担研究者：

野内英樹（結核研究所研究部主任研究員 現：研究部リサーチフェロー）

研究協力者：

今津里沙（結核研究所研究部 リサーチフェロー）

研究要旨

本研究は昨年度の報告書において、HIV/AIDS に対する危機管理対策のあり方を検討し、西ヨーロッパでの事例を分析した。その結果、HIV/AIDS 対策は、SARS 対策に見られたようなトップ・ダウン構造に基づく「水際作戦」ではなく、既存の体制を補強し、「ネットワーキング」や「ラテラル・コミュニケーション」を通して各組織や部署間の横の連携を強化する、長期的な国家戦略として考えるべきであるという結論に達した。また、HIV/AIDS に対しては広域的な多国間の地域協力が必要であり、その際にはその地域の文化や社会に適した協力体制を構築していく必要があると主張した。

本年度、我われは 2005 年 7 月に神戸で開催されたアジア・太平洋エイズ国際会議において、サテライト・シンポジウム「Responding to HIV/AIDS among the Mobile Populations in Asia Pacific in conjunction with presentation on Research on HIV/AIDS and International Migration under the Health and Labour Sciences Research Grant, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan」を企画し、それを本研究の成果発表の場に留めず、これまでの研究成果をアジア諸国で活動している研究者や NGO と共有することによって、アジア・太平洋地域に根付く協力体制を調べていく第一歩として、多国間における専門家のネットワークの構築を試みた。その際に、シンポジウム参加者を対象としてアンケート調査を行ったが、その結果、今後のネットワーク構築に重要と考えられる、幾つかの共通した課題が浮き彫りにされた。

A. 研究目的

アジアに基づく専門家ネットワークを構築する際に重要とされる課題を特定し、如何にしてそれらを今後のネットワーク構築のプロセスに取り組んでいくかを検討する。

B. 研究方法

本研究班の、在日外国人を対象とした社会疫学調査によると、1998 年以降我が国の HIV 感染報告数は減少傾向にあるにも拘らず、東南アジアを出身地とする在日外国人の推定感染者数は増加傾向にあることが推計した。これは様々な社会文化的あるいは法的な障害のため、感染者や感染リスクの高い者達が HIV/AIDS に関する情報や支援にアクセスしておらず（できておらず）、水面下で感染が拡大している可能性を示唆している。一方西ヨーロッパにおける移民に関する HIV 対策の分析では、移民の出入国を強制的に規制するよりは、むしろ移民がもたらす肯定的な社会経済効果を最大化すると共に、否定的な効果を最小化できるような制度を設け、移民を前向きに受け入れる方が HIV 対策としては効果的であることが示された。

本年度、本研究班は 2005 年 7 月に神戸で開催されたアジア・太平洋エイズ国際会議において、サテライト・シンポジウム「Responding to HIV/AIDS among the Mobile Populations in Asia Pacific in conjunction with presentation on Research on HIV/AIDS and International Migration under the Health and Labour Sciences Research Grant, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan」を企画し、それを本研究の成果発表の場に留めず、これまでの研究成果をアジア諸国で活動している研究者や NGO と共有することによって、アジア・太平洋地域に根付く協力体制を調べていく第一歩として、多国間における専門家のネットワークの構築を試みた。従って、我われ CARAM Asia 及び SHARE と協力し、移民送出国及び移民受入国において活動している非政府組織（CARAM Asia, SHARE, ACHIEVE, MAP Foundation）、並びに UNDP からの代表者をスピーカーとして迎え、移民における HIV/AIDS 対策に関する協議を行った。

事前に CARAM Asia と共に作成した自己記入式アンケート（添付 1）をシンポジウムの開始前に

プログラムと共に参加者全員に配布し、シンポジウム終了後に回収ボックスを通して収集した。データを Microsoft Excel にて整理した。

C. 研究結果

およそ 160 名の参加者のうち、アンケート回答者は 43 人と半数以下ではあったが、示唆に富む意見が得られた。参加者の出身国は実に 14 カ国に達し、内訳としては、日本からの参加者が 25.6 パーセント (11 人)、中国とタイがそれぞれ 14.0 パーセント (6 人) であった。それを参加者の帰属機関ごとにもみると、NGO からの参加が 21 人と一番多く、次に政府関係者が 9 人、研究機関が 6 人であった。

まず、シンポジウムの内容に対する参加者の反応・評価は、Interesting (関心がある)、Informative (有益な知識をもたらす)、Relevant (参加者に対し、関連性がある) の 3 つの項目に分けて行ったが、それぞれの項目で極めて高い評価を得た。例えば、interest に関しては、90 パーセント以上の参加者が「very interesting」あるいは「interesting」と答えた。また、informative に関しては、79 パーセントが「very informative」あるいは「informative」と回答した。Relevant に関しても、88 パーセントと高い割合の参加者が、「very relevant」あるいは「relevant」という評価をした。

発表された内容に関する具体的なコメントは概ね肯定的であったが、中でも高い評価を得た発表は、ポロック氏によるアジア太平洋地域の移民における HIV/AIDS 問題の概要、沢田氏による受け入れ国の体制、マリン氏による送り出し国の体制に関する発表であった。結核研究所の研究成果発表に対する関心も高かった。具体的なコメントとしては、「当該問題に関したアジア地域に根づく独自の研究ネットワークを、結核研究所が積極的に構築していくことの重要性に賛同したい」と「研究成果を政策に反映していく体制を築いていくべきだ」との意見が挙げられた。

最後に今後の研究課題と政策課題についても聞いた。様々な意見が寄せられたが、研究課題に関して最も重要とされたものは、「移民における HIV 感染に関する社会疫学的データの充実」、「介入の費用対効果に関する研究」そして「ARV へのアクセス向上に貢献する研究」であった。一方政策課題として最も重要とされたものは、「移住労働者への医療機関などにおけるガイドラインの必要性及びその標準化」、「人権重視政策の重要性」、「NGO やその他の専門機関同士の連携」、「情報やデータの集中化・データバンクの設立」などであった。

D. 考察

先ず、参加者の出身国と所属機関を見ると、この課題に対する関心が国際的なものであることが分かる。特筆すべき点は、タイや中国のように、受入国であると同時に送出国でもある国の参加が目立ったことである。特に、送り出しだけという国が減少している事実は、世界の人口移動がダイナミック、尚且つより複雑に進行しているという傾向と合致している。

また参加者によって浮き彫りにされた点だが、これらはいずれも国境を越える課題 (transnational issues) である。例えば医療従事者を対象としたガイドラインの標準化やデータバンクの設立などは多国間でのネットワークなくしての実現は難しい。このような指摘は、効果的な HIV/AIDS 対策は国家間レベルでの取り組みが必要であるという認識が国際化されてきたことを表している。

E. 結論

今回、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業石川班の「アジア太平洋地域における国際人口移動から見た危機管理としての HIV 感染症対策に関する研究」は、国際会議のサテライト・シンポジウムという形で研究成果の発表を行ったが、これは単に研究成果発表の場であったという枠を大きく超え、将来の発展的研究を可能にする協力体制を構築することに繋がった。つまりアジア太平洋地域において活動する複数の NGO との協力関係を通じて本シンポジウムを開催したことにより、石川班が今後の研究の成果として行う政策提言に対しては、より現場に近い視点からのフィードバックないしはアドバイスを得られる関係を築いた。今後はアンケートの詳細な分析を行い、その結果を引き続きネットワーク構築に反映させていきたい。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 知的所有権の出願・所得情報

特になし。

H. 研究発表

1. 学会発表

Yanai H, Imadzu L. Research on HIV/AIDS and International Migration. Presented at 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Kobe, Japan. July 2005

Imadzu L, Yanai, S. Possibilities and limitations of a regional approach to HIV/AIDS among the migrant population in Asia-Lessons from the European Experience (SuE03-01)

Presented at 7th International Congress on AIDS
in Asia and the Pacific, Kobe, Japan. July 2005

Imadzu L, Carter S, Yanai, H. Post-crisis
Management: Implications for the Control of
HIV/AIDS in the Asia-Pacific. (MoPE0006)
Presented at 7th International Congress on AIDS
in Asia and the Pacific, Kobe, Japan. July 2005

Responding to HIV/AIDS among the Mobile Populations in Asia-Pacific

Please complete the questionnaire before you leave. Your response is very important!

1. Your occupation is:

- 1) Medical staff (please specify: doctor, nurse, pharmacist, counselor, medical technologist, other)
- 2) Researcher (please specify: public health, health policy, medicine, social science, other)
- 3) Government officer
- 4) NGO
- 5) Student
- 6) Other (please specify _____)

2. Your nationality is:

Country: _____

3. The name of your organization is:

Name: _____

4. Your organization is:

- 1) Governmental organization
- 2) Non-governmental organization
- 3) International organization
- 4) Research Institution
- 5) Other (please specify _____)

5. Your organization is primary active at:

- 1) Sub-national level (e.g. district)
- 2) National level
- 3) Regional level
- 4) International level
- 5) Other (please specify _____)

6. Is your organization directly involved with:

- 1) Migrants
- 2) HIV/AIDS
- 3) both
- 4) Other (please specify _____)

7. Your primary objective of attending this symposium is:

_____ (e.g. academic interest)

8. You learned about this symposium from:

- 1) Poster
- 2) Internet
- 3) Other participants
- 4) Other (please specify _____)

9. You find the symposium venue, date, and time:

- 1) Very convenient
- 2) Convenient
- 3) Not convenient
- 4) Other (please specify _____)

Responding to HIV/AIDS among the Mobile Populations in Asia-Pacific

10. You find this symposium:

In terms of interests:

- 1) Very interesting
- 2) Interesting
- 3) Not interesting
- 4) Other (please specify _____)

In terms of information:

- 1) Very informative
- 2) Informative
- 3) Not informative
- 4) Other (please specify _____)

In terms of relevance:

- 1) Very relevant
- 2) Relevant
- 3) Not relevant
- 4) Other (please specify _____)

11. Which presentation was most important to you? (please give reason)

- 1) Overview of the situation in Southeast Asia
- 2) Presentation on RIT research
- 3) Sending country perspective
- 4) Receiving country perspective
- 5) Role of international organizations

REASON _____

12. What do you feel is the most important agenda at present?

In terms of research _____

In terms of policy _____

13. What do you feel is hindering an effective policy response to the problem in HIV/AIDS and migration?

- 1) lack of financial and human resources
- 2) lack of scientific research
- 3) lack of multi-level collaboration
- 4) lack of political leadership
- 5) lack of public awareness
- 6) Other (specify _____)

If you have any other comment, suggestion or question, please write below.

Thank you very much for your cooperation!

研究成果の刊行に関する一覧表

成果刊行物

論文

- Sato R, Keiwarnka B, Isaranurung S, Pattara-Archachai J, Yanai H, Tunekawa K. Characteristics of Voluntary Counseling and Testing (VCT) Acceptance among Pregnant Women Attending an Antenatal Care Clinic at Lerdsin Hospital, Bangkok, Thailand *The Journal of AIDS Research* 2005;7:131-140.

その他

- Japanese Foundation for AIDS Prevention, CARAM-Asia, Research Institute of Tuberculosis, SHARE. (2005) Responding to HIV/AIDS among the Mobile Populations in Asia Pacific in Conjunction with presentation on Research on HIV/AIDS and International Migration under the Health and Labour Sciences Research Grant, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan. Kyoshin, Japan

研究成果の刊行物・別冊